

研究概要

風邪をひいて体調が悪いといつもより悲観的になったり、肌の調子が悪いと考えが卑屈になったりしたことはありませんか？身体と心の状態が関連していることは、日常で感じることも多いのではないのでしょうか。

私はこれまで主に、「がん」という大病に直面した患者さんとご家族を対象に、心理学的側面からその経験を理解し、支援方法を提案するサイコオンコロジーを専門としてきました。

心身の状態は関連しているので、がんの診断を受けたとき、再発が判明したとき、治す手立てがなくなったとき、自分らしく現実に向き合うのは簡単なことではありません。病と向き合う状況でも、自分らしく治療や人生を選択していくために心理学を役立てたいと考え、研究を続けています。

最近では、認知症の患者さんやご家族の支援、病気になる前の家族関係の在り方についても関心が広がり、生涯発達の視点で人生を豊かにするために心理学を活かすことに興味をもっています。

心理系専攻
准教授

しおざき まりに
塩崎麻里子
博士(人間科学)



Mariko SHIOZAKI
shiozaki@socio.kindai.ac.jp

http://researchmap.jp/mariko_shiozaki

研究テーマ

1. がん患者とその家族の意思決定支援

人生の最期を決定する意思決定は、客観的で合理的な選択が最良とは限りません。そこで、“後悔を減らすこと”を、終末期のがんの治療選択におけるひとつの落としどころとして研究を行ってきました。

心理学分野における先行研究では、後悔が生じやすい条件や、後悔をしやすい意思決定スタイルが明らかになっています。日本のがん医療における意思決定は、本人だけでなくご家族が大きな影響を及ぼすことが多いという背景から、本人とそのご家族を含めて、後悔の少ない意思決定支援の在り方について提案を行っています。

また、近年の急速な高齢化を背景に、意思決定における加齢の影響も加味した研究を行っています。

2. がん患者の夫婦間コミュニケーション

家族の一員ががんになると、患者だけでなく家族にも大きな影響があります。家族は、闘病と仕事や家事、子育ての両立に疲弊した状況で、患者への接し方に思い悩み、患者より心理的不適応状態に陥ることも少なくないことが報告されています。このような状況で、患者と家族間のミス・コミュニケーションは生じやすく、両者の適応に深刻な影響を及ぼすことがあります。

これまでに乳がん患者と配偶者を取り上げ、夫婦間のミス・コミュニケーションを研究してきました。男女のコミュニケーションの違いを土台として、がんという特殊性が加わることで、よりネガティブな影響が強まる状況を量的・質的アプローチで明らかにしてきました。配偶者向けのウェブサイトを立ち上げて情報提供しています。

3. 認知症患者の家族の代理意思決定支援

学内の共同研究プロジェクト(認知症高齢化社会の質の向上のための医工文理アプローチによる研究)のサブテーマとして、認知症患者とその家族を地域で支えていく仕組みづくりに関する共同研究を行っています。

認知症は、本人の認知機能が低下していくために、意思決定能力が蝕まれていく病といえます。患者を支える家族は、患者の人生の最期を代理で意思決定していく場面にも多く遭遇します。がん患者と家族の意思決定との共通点や相違点を整理したうえで、家族が後悔しない意思決定支援について提案を行っていき

たいと考えています。

4. いのちの教育の在り方とその効果

人は生まれたからには、誰でも死を迎える運命にあります。しかし、人生の終わりを決める病気は、そもそもかかるのか？それは、どのような状況で、いつなのか？そのすべては、誰にも予測することはできません。今を生きる私たちにできるのは、あるのでしょうか。

大学の授業の枠組みにおいて、生きていく上でのレジリエンスを高めるためには、どのような教育が効果的で、どのような工夫が必要なのか、ゼミ学生と共同で継続的に研究を行っています。

論文・著書

- 塩崎麻里子・中里和弘 遺族の後悔と精神的健康の関連：行ったことに対する後悔と行わなかったことに対する後悔 社会心理学研究 25, 211-220, 2010.
- Shiozaki M, Hirai K, Koyama A, et al. Negative Support of Significant Others Affects Psychological Adjustment in Breast Cancer Patients. *Psychology & Health* 26, 1540-51, 2011.
- 塩崎麻里子・酒見惇子・佐藤貴之 他 問題解決プロセスを応用した膵臓がん患者の心理社会的問題と対処法リストの作成：外来において化学療法加療中の膵臓がん患者を対象として *Palliative Care Research* 10, 186-193, 2015.
- Shiozaki M, Sanjo M, Hirai K. Background factors associated with problem avoidance behavior in healthy partners of breast cancer patients. *Psychooncology* 26, 1126-1132, 2016
- 塩崎麻里子・三條真紀子・吉田沙蘭 他 がん患者の遺族の終末期の治療中止の意思決定に対する後悔と心理的対処：家族は治療中止の何に、どのような理由で後悔しているのか？ *Palliative Care Research* 12, 753-760, 2017.

趣味

- 美味しい酒どころめぐり

「とりあえず、ビール！」から始まり、ワインや焼酎、ブランデー、日本酒…美味しいお酒が大好きです。お酒にぴったり合う食事を五感で楽しみ、その場を囲む人と時を共有する。最高に幸せを感じる瞬間です。

- 植物とのふれあい

観葉植物や果物や実のなる植物を育てたり、季節のお花を咲かせるのが好きです。

ゼミの宣伝

卒論のテーマは、意思決定・後悔・親子関係・結婚観・死生観・etc…と様々です。ゼミは、集まる人によって、作り出される雰囲気は全く違って、毎年、本当に面白いです。楽しく、そして真剣に学びたい人は、その空間を自分たちで作る自覚をもって、ぜひ、塩崎ゼミに集合してください！

